

事故事例に学ぶ

20

追突事故



自車の前に割り込んだ普通乗用車に追突

事故の概要

発生状況

日 時：平成15年3月某日午後3時40分頃

天 候：晴れ

発生場所：静岡県清水市内の交差点付近

道路状況

片側二車線の国道

事故の当事者

運転者A（10トントラック）：35才、男性

会社員B（普通乗用車）：25才、男性

被害状況

A：物損...車両前部フェンダー凹損小破

B：人身...頸椎捻挫等 全治2か月

物損...車両後部大破

事故状況

Aは、相模原市内の運送会社に勤め約11年の運転歴があり、6年前に普通貨物自動車でも軽微な物損接触事故を経験しているが、それ以来無事故の運転者であった。

その日は、横浜市内の工場から精密機器を積込

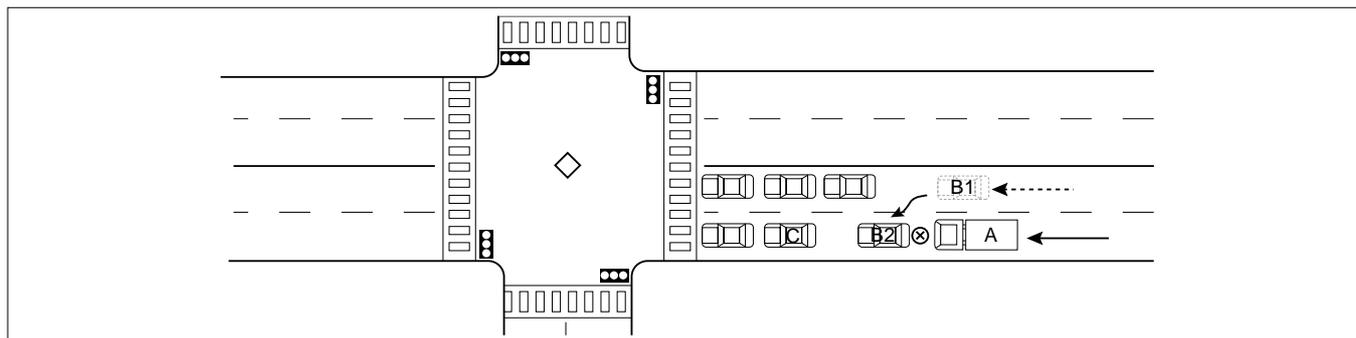
み静岡県内の2か所の販売店へ配送した帰りで、事故現場となった交差点手前に差し掛かった。

Aは制限速度の50キロ位の速度で走行車線を進行し、前方交差点の信号で停止しようとしたライトバン車Cに続いて停止しようとした約25m位の車間距離を保ち進行していたところ、並進していたB車がいきなり進路を変え自車の前へ割り込んできたため、急制動したが及ばずB車に追突した。

事故の原因

Aが運転していたコースは月に数回は往復している走り慣れた道であり、今まで事故現場付近で割り込まれたこともなく、特に緊張した運転の状況ではなかったが、事故の原因として、Aは、

- ①中央寄り車線の交差点手前の停止車両は、信号の表示が進めになっても右折車があるときは進めなくなるため、直進車は中央寄り車線から左車線へ進路変更することが儘あるのに、このときは予想していなかった。



一方Bは、

- ①現車線に右折車ができることを推測し、少しでも早く進むことを考え無理な車線変更に及んだ。
- ②方向指示器の表示と同時に車線変更し無理に割り込んだ。

追突事故の実態

平成14年度当組合の追突事故発生状況

人身	全事故に占める割合	物損	全事故に占める割合
396件	50.3%	408件	24.3%

追突の原因別

区分	脇見等前方不注視	車間不保持	その他	計
対人	292件 (73.7%)	98件 (24.7%)	6件 (1.6%)	396件 (100.0%)
対物	273件 (66.9%)	122件 (29.9%)	13件 (3.2%)	408件 (100.0%)

追突事故の原因で多いのは脇見、動静不注視、漫然運転などで、対人では4分の3、対物では3分の2を占めています。次いで車間距離不保持による追突事故が、対人で4分の1、対物で3分の1の発生となっています。追突の起きた場所としては、対人事故で、一般単路が約65%、交差点が約17%、高速道路が約15%でした。

追突を起こす理由

- (1)前の車は止まることはない、減速することはない、との思い込みがあることからの脇見。
- (2)ミラーで後方を見ていた、前々車をみていて前車をよく見ていなかった等の理由から、「前車の動静注視」を怠った。
- (3)「興味・関心のある事柄」が目に入り脇見をしてしまった。
- (4)「居眠り、ぼんやり、考え事」をしていた、携帯電話を使用していた等による「漫然運転」は急激な状況変化に対応できない。

追突の防止対策

全国の人身交通事故のうち、追突事故の占める割合は毎年約30%ですが、当組合では約50%前後で約20ポイントも上回っています。これはトラックが追突事故を起こしやすいことを示しており、それは以下の理由によります。

(1)トラックの視界特性

運転席が高く、見下ろす視界は、路面が広くて目標を遠く感じるため無意識に車間距離を短めにとってしまう。

(2)流体刺激から遠ざかるようとする

路面が流れ飛ぶように見える刺激から遠ざかるようとするため、無意識のうちに先行大型車に異常接近してしまいます。

(3)トラックの制動距離

トラックは車重、積荷等の影響で、制動距離は乗用車より30%以上も長くなります。

追突事故の防止のため、次のことを守ってください。

(1)車間時間は3秒以上

前車との距離を「ゼロイチ、ゼロニ、ゼロサン」と最低3秒間とりましょう。

(2)脇見は最小限に

脇見による追突等が最も多いことを自覚し、脇見はどのような場合に、どこに向けてするかを認識し、必要最小限にすること。2秒以上の脇見は危険です。

(3)適度な緊張感を保つ

考えごと、ぼんやり運転は危険です。単調な道路、渋滞道路ではややもすると運転以外のことを考えがちです。意識して緊張感を高めるようにしましょう。

7月1日から100日間の無事故運動を実施しています。特に「追突事故の防止」に皆様のご協力をお願いします。